

公開 I

国語科学習指導案

授業者 黒川達也

学年・学級 2年3組

授業日 1月29日(土)

1 単元 スーホと白馬の心のつながりを読もう

(『スーホの白い馬』おおつか ゆうぞう 光村図書2年)

2 授業づくりについて

本学級の子どもたちは、これまで物語文の学習において、本文の叙述を基に、場面の様子や登場人物の気持ちなどについて想像を広げて読む学習を積み重ねてきた。『スイミー』の学習では、スイミーの目に映った物、聞こえてきた音などを具体的に想像し、スイミーの心情に寄り添いながら物語の世界を味わう読みを行った。また『お手がみ』の学習では、「自分だったらお手紙を書いたことをがまくんに伝えるか」などと立場を選択して話し合う学習活動を通して、がまくんとかえるくんのそれぞれの気持ちについて自分の経験と結び付けながら考える姿が見られた。そして『わたしはおねえさん』の学習では、すみれちゃんとかりんちゃんの中のやり取りを動作化する活動を通して、すみれちゃんの気持ちが変わっていく様子を共感的に理解する姿が見られた。このような学習を行ってきたことにより、叙述を基に想像を広げて読んだり、自分なりの根拠や理由をもって考えを形成したりする力が身に付いてきている。

本単元で扱う「スーホの白い馬」は、モンゴルに昔から伝わる楽器「馬頭琴」にまつわる由来話であり、心優しい少年スーホと、そのスーホに大切に育てられた白馬の強く温かな絆が描かれた物語である。子どもたちは、白馬を失ったスーホの悲しみに共感したり、「馬頭琴」という楽器として形を変えてもそばに居続ける二人の関係に感動したりしながら、二人の心情や心のつながりを読み深めていくだろう。本教材では「あせがたきのように」などの比喩や「だきかかえて」「はねおきて」などの複合語、「走って、走って、走りつづけて」などの繰り返しの表現など、登場人物の行動描写が豊かに描かれている。そこで、スーホと白馬の行動描写に着目しながら心情について想像を広げて考え、人物同士の心のつながりを読み深めていくことをねらって単元を構成した。子どもたちの生き物を大切に育てた経験、遠く離れた相手やもう会えない相手を大切に思う経験などと結び付けながら考え、物語を読み深めることができるよう学習を進めていきたい。

以上のことを踏まえ、本単元の指導に際しては次の2点について留意する。1点目は、学習課題の設定である。本単元の中核的な内容は「登場人物の心のつながりを読む」ということである。そのため、第2次では「スーホと白馬の心のつながりを読もう」という共通した学習課題を設定して毎時間の授業を行う。これにより、子どもたちの読みは「心のつながり」に焦点化され、「この場面はどんな心のつながりだろう？」と自ら考え、主体的に読む姿を引き出すことができると考える。1単位時間毎の授業につながりが生まれ、前時までの心のつながりと比較する思考が働くことにより、「スーホと白馬の心のつながり」の変化について考えを深めることができると考える。2点目は、言語活動の工夫である。第2次では、毎時間の終末に「スーホの白馬日記」を書く表現活動を位置付ける。スーホの行動描写を中心に読みの交流を行ったことを生かし、子どもたち一人一人が「日記」という形で白馬への思いを語り直す活動である。このような言語活動を継続して行うことで、白馬と一緒に過ごす喜びや、白馬を失った悲しみなどのスーホの気持ちの変容を表現することができる。そして第三次では、「スーホの作り出した馬頭琴がモンゴル中に広まった」という本教材の構造を生かし、「スーホが仲間の羊飼いたちに語るとしたらどんなことを語るか」という視点で考える言語活動を行う。スーホとして白馬との思い出や白馬への思いなどを自分の言葉で語り直すことで、本単元を通して考えを深めてきた「スーホと白馬の心のつながり」を表現できるようにする。このように、二次での言語活動が三次で活用できるよう単元を構成し、学習を進めていく。

3 目標

- 比喩や複合語、繰り返しの表現などの意味を理解し、その良さに気付くことができる。
- 行動描写や会話文などの叙述を基に、登場人物の心情について想像を広げながら読むことができる。
- 物語を読むことに興味もち、登場人物の会話や行動に着目して想像を広げながら読もうとしている。

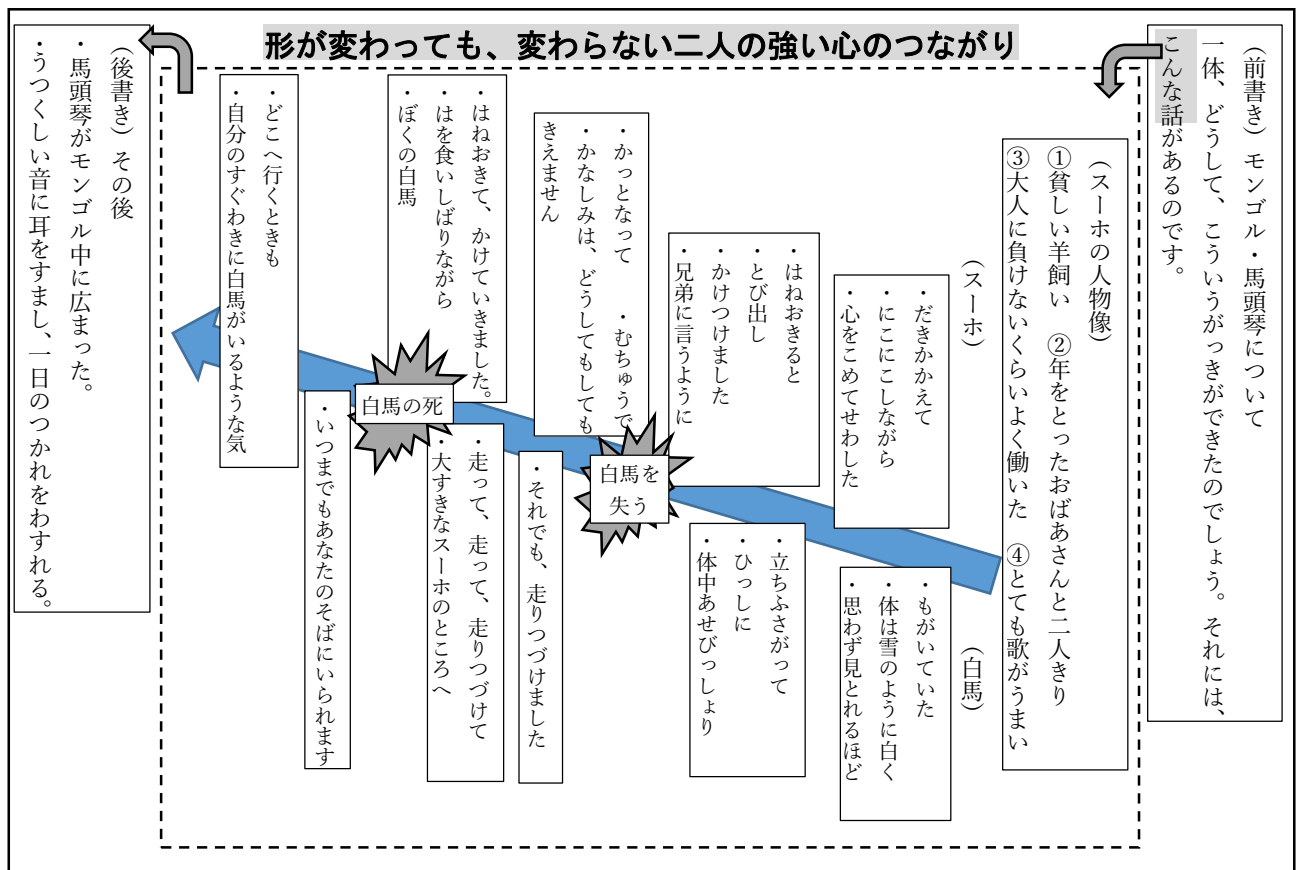
4 学習の流れ（全12時間）

学習活動	教師の働きかけ	評価の視点
1次 『スーホの白い馬』のお話を知ろう		
1) 題名から物語の内容を想像する。「前書き」を読み、物語の舞台を知る。 2) 教材文を読み、感想を交流する。 3) 登場人物、物語の大体を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既有知識や経験を引き出し、物語の内容を想像したり、物語の舞台であるモンゴルについてのイメージを広げたりすることができるようにする。 ・ ロイロノート上に「思ったこと」「わかったこと」「はてな」の3つの視点で整理していくように促す。 ・ 挿絵や時間を表す言葉に着目することで、場面の様子や出来事を大まかに捉えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような話なのか想像をしたり、モンゴルの様子について考えたりしている。 ・ 全文を読み、ロイロノート上に感想を書いている。 ・ 場面の様子や出来事を大まかに捉えている。
2次 スーホと白馬の心のつながりを読もう		
4) スーホの人物像について考える。 5) スーホが白馬を連れて帰ってきたときの心のつながりについて考える。 6) 白馬がおおかみから羊を守ったときの心のつながりについて考える。 7) 白馬と離れ離れになってしまったときの心のつながりについて考える。 9) 白馬が帰ってきて、死んでしまうときの心のつながりを考える。【本時】 10) 馬頭琴を作り、一緒に過ごす二人の心のつながりを考える。 11) 「後書き」を読み、馬頭琴がモンゴルの草原中に広まったことについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ スーホの生活を表す叙述に着目させることで、人物像を具体的に想像することができるようにする。 ・ 子馬を連れて帰ってきた時のスーホの様子について叙述をもとに想像することで、スーホの白馬に対する思いを捉えることができるようにする。 ・ 羊を守る白馬の様子について叙述をもとに想像することで、それに対するスーホの思いや両者の関係の深まりを捉えることができるようにする。 ・ これまでの二人の関係とつながって考えることで、離れていても白馬を思うスーホの気持ちや両者の心のつながりを捉えることができるようにする。 ・ スーホの行動描写に着目することで、白馬が死んでしまうことへのスーホの悲しみや互いを大切に思う両者の心のつながりを捉えることができるようにする。 ・ 白馬の言葉やスーホが馬頭琴を作る様子、演奏する様子について叙述をもとに想像することで、スーホの思いや馬頭琴として形を変えても一緒に居続ける両者の心のつながりを捉えることができるようにする。 ・ 前書きと後書きを関連付けて読むことで、これまで読み取ってきたスーホの思いがモンゴルの草原の人々に広まったことを感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 叙述をもとに、スーホの人物像を想像している。 ・ 「だきかかえて」「にこにこしながら」などの叙述に着目してスーホの思いを考えている。 ・ 「ひっしに」「兄弟に言うように」などの叙述に着目してスーホの思いを考えている。 ・ 「かなしみは、どうしてもきえませぬ」などの叙述に着目してスーホの思いを考えている。 ・ 「はねおきて」「はを食いしばりながら」などの叙述に着目してスーホの思いを考えている。 ・ 「いつまでもあなたのそばに」「むちゅうで」「どこへ行くときも」などの叙述に着目してスーホの思いを考えている。 ・ これまでの読みを生かし、モンゴルの草原の人々の様子を想像している。
3次 白馬との思い出をなかまのひつじかいたちにかたろう		
12) スーホが白馬との出来事をどのように羊飼いたちに語ったのか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで書き溜めてきた「スーホの白馬日記」を生かし、「仲間の羊飼いたちに語るとしたらどんな白馬との思い出を語るか」という視点で考えるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白馬との思い出や白馬に対する思いを振り返り、スーホの視点で表現している。

5 評価の枠組み

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1次	挿絵や時間を表す言葉などを手掛かりにしながら、場面の様子や出来事を大まかに捉えている。	既有知識や自分の経験を基に、題名からどのような話なのかを想像したり、前書きから物語の舞台であるモンゴルの様子について考えたりしている。	物語の内容に関心を持ち、読んで感じたことを友達と伝え合おうとしている。
2次	比喩や複合語、繰り返しの表現などの意味を理解し、その良さに気付いている。	行動描写や会話文などの叙述を基に、登場人物の心情について想像を広げながら読んでいる。	本文の叙述を基に、自分の経験や感じ方などから登場人物の心情を想像し、自分の読みをつくらうとしている。
3次		今まで読み深めてきたスーホと白馬の人物関係を基にし、スーホとして白馬との思い出や白馬への思いなどを自分の言葉で表現している。	これまでの書き溜めてきた「スーホの白馬日記」を振り返り、心のつながりを感じながらスーホの思いを語り直そうとしている。

6 構造図



7 本時の学習について（全 12 時間の第 9 時）

（1）目 標

- 久しぶりに会える白馬のもとへかけていくスーホの様子，目の前で弱っていく白馬を見つめるスーホの様子などを，叙述から具体的に想像してスーホの気持ちを捉えることができる。
- 白馬が死んでしまうことによって，スーホと白馬の「心のつながり」はどのように変わっていくのかについて考えを深めることができる。

（2）展 開

学習活動	教師の働きかけ	評価の視点となる 子どもの姿のあらわれ
1. 前時までの学習を振り返り，学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでスーホと白馬の「心のつながり」について読んできたことを振り返り，学習課題を確認する。 ・気持ちを考える際に，会話文や行動に注目して読んできたことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのスーホと白馬の心のつながりの変化を理解している。 ・登場人物の気持ちを考える際には，会話文や行動に着目することを理解している。
スーホと白馬の心のつながりを読もう		
2. 挿絵を提示しながら本時で学習する場面を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「スーホのもとに白馬が帰ってくるが，死んでしまう場面」であることを確認し，「心のつながり」について考えていくよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時に学習する場面を理解し，「心のつながり」について考えようと意欲を高めている。
3. 本文を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> ・一文ずつ教師の範読に続いて読むことで，登場人物の行動や場面の様子を確認しながら読めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のまとまりを捉えながら，聞きやすい声で読んでいる。
4. 本文から「心のつながり」がわかる叙述を見つける。	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のつながり」がわかる叙述に着目して，教科書にサイドラインを引くよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーホと白馬の気持ちがわかる行動や会話文を見つけることができる。
5. それぞれの叙述から感じることを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・行動描写に着目した場合には動作化をしたり，会話文に着目した場合には「どのように言ったのか」を考えたりすることで，行動や心情を具体的に想像できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述に着目したり，自分の経験と結び付けたりしながら自分の考えを表現することができる。
6. 心のつながりについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・スーホと白馬の心情について具体的に考えることで拡散した思考を，「どのような心のつながりか」と短い言葉でまとめることで収束させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーホと白馬の心のつながりを短い言葉で表現することができる。
7. スーホの「白馬日記」を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時を通して考えた気持ちや心のつながりについて，スーホの視点で書くよう促す。ロイノートを用いて共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で考えたスーホの気持ちや心のつながりを「白馬日記」に表現することができる。